歴史・文化・伝統は津山の真骨頂 ―

市長　食と健康は、非常に深くかかわっています。食はすべての基礎。空腹を満たすだけでなく、味わいや食文化、人間形成の基礎となるものとしての食が、健康に結びついていきます。食の大切さは、長い間忘れられていましたが、最近にわかに注目されています。これをどのように地域のしあわせづくりにいかしていくのか考えているところです。

井田　食というのはその人のライフスタイルそのものです。それゆえ、生活習慣病の食事指導はなかなか難しいものがあります。健康情報がはんらんする中、通り一遍の指導では本人の納得は得られず、改善も期待できません。健診データやライフスタイルデータを駆使することで、本人自ら気づいてもらい「直そう」という意志を引き出す。行動変容に向けた継続的支援、このような個別性、主体性を重視した指導こそが効果的であると感じています。

市長　健康で元気な人が増えることは、本人のしあわせだけでなく、行政も医療費の負担が少なくなります。風邪がはやると、医療費が1億か2億円多くいるくらい大きな影響があります。そこをみなさんにわかりやすく説明する必要があり、面白い知恵があればと思います。

杉山　健康については、元気であればしあわせなのかといえば、確かに不幸ではありません。半分しあわせですけど、もう半分が大切です。自分の生きている証（あかし）というか、楽しみが必要です。食べ過ぎは体に悪いけど好きだから食べるとか、家族と夕食を取る、という楽しみは量とか質の問題とは別のものだと思います。それをどこまで折り合いを付けるかということですね。

私が一昨年フランスに行ったときのことですが、仕事仲間が家から120㎞くらい離れたところに家付きの畑を借りていました。毎週末、奥さんと出掛けては、畑仕事をして1泊して戻ってくる。これはパリ市民の高齢者にとって人気のある生活だそうです。

津山でこのような家付きの畑を有料で提供すると、神戸辺りの人に人気を呼ぶのではないでしょうか。時期がまだ早いのかもしれませんが、いずれそういう時期が来るように思います。

これからの津山に描く夢

市長　いろいろ課題があり、それに向けて努力しないといけないわけですが、これからの津山に向けて夢を描くとすればどんなものでしょうか。

杉山　「津山芸術村」はどうですか？若い芸術家に対して、絵を描いたり陶芸ができるアトリエ付きの家を安い家賃で提供してあげる。ここで作品を制作し年2回くらい展示販売を行ってあげる。そしてその売り上げの2割くらいを市がもらう。まだ修行中の若い芸術家をサポートして育てる「津山芸術村」というのは、夢があっていいなと思っています。

厳しい現実も見方を変えれば

井田　かつて「介護移住」という言葉が話題になりました。移住してでも手厚い介護が受けられるまちに住みたいということ。年を取っても一生安心して暮らせることは揺るぎない魅力の指標です。

高齢化は今後も進み、2030年には高齢化率は30％。地方は都会の倍くらいの高齢化率になります。

ただ重要なのは、この状況をどう捉えるかです。介護保険制度は、今日、5兆5千億円の介護サービス市場を誕生させました。2025年には、20兆円市場になると予想されています。一方、これからは予防事業の時代です。現在、日本の医療費は30兆円強ですが、2025年には約60数兆円に。国は医療費の抑制策として、現在、予防事業に力を入れようとしていますが、これも大きなマーケットの創出として捉えることができます。

その一環として、平成20年度からは40歳以上の全国民に対して健康診断とそれに伴う保健指導が義務化されます。今、この予防事業に従事できる人手が全国的に足りないといわれています。この機会に、全国展開している大手事業者にゆだねるのではなく、津山市にある様々な法人や、地域の人たちが参加できるNPO法人などがかかわり、予防事業をしっかり育ててはどうでしょう。就労の機会もでき、何よりもまちの人でまちの人を支援していくことの意義は大きいと思います。

これらは高齢社会ならではのマーケット。高齢社会を悲観するのではなく、肯定的に捉えて、はぐくむことによって、いつまでも安心して暮らせるまち、夢のあるまちを作っていけるのではないでしょうか。

市長　私たちは、望んでいない社会を前提とした絵が描けないのですね。高齢化や少子化は、誰もが事実とわかっていても、そうなることを心の中では認めたくない。だからその対策が積極的にはなかなか進まない。厳しい現実を認めたうえで積極的に対応していくという考えと、まだ踏み出せないでいる私たちの状況とに、非常にギャップを感じながらも、かくあるべしとたいへん参考に思いました。

津山の桜は天下一品

小宮山　人が減ります、年は取ります、ということに対する政策は否定的なイメージがあって、行政は出しにくいのではと思いますね。元気で年を取っていられるのはいいのですが、生きがいがないと。これがないと「生きているだけ」。ここが難しいと感じますね。

幼保一元化のことですと、幼稚園と保育所をいっしょに、さらには学童保育もいっしょにする動きもあります。そうすると小学校の放課後の空き教室を使えばそのままできるのでは…。また、老人ホームを隣に、あるいは2階にいっしょにすれば…、というような案もあります。すごく良い面もありますが、一方は子ども、一方は少し不自由になってきた高齢者。元気な高齢者が生きがいを持てる形でできることが考えられないでしょうか。

最後に津山をどうしたらいいかですが、私は観光だと思います。鶴山公園は櫓（やぐら）もできて素敵ですよね。津山の桜は天下一品だと思っています。大人になって各地の桜の名所を随分見ましたが、どこを見ても津山の方がずっといいと思っています。城下町の町並みや洋学もいいですが、桜が一番。ところが東京で観光パンフレットを見ても津山はないですね。

観光というのは、名前が知れて、人が来て、お金が落ちて、住んでいる人にも活気を与えて、仕事も増やして…ということで良いと思うんです。観光で町興しをしているところを見ると、上から押し付けられたのではなく、地元の人が自ら取り組んでいますね。

ところで、天守閣の再建はされるのですか？

市長　気持ちとしてはやりたいのですが、現実にはなかなか。備中櫓は津山城跡に60あった櫓の1つで、1番目立っていた良いものでした。あれだけでもだいぶ良かったなと思いますね。

さて、今日はいろいろとご提案をいただきありがとうございました。故郷は少し離れたところから見ることも大事だと思いました。

最後に観光のご指摘をいただきましたが、津山城跡をはじめ、ふと故郷を思うときに気付くものが一番いいのではないかなと思いますね。そういう意味で、観光にも力を入れたいと思っています。

また津山人の誇りとしている津山洋学をはじめとした歴史・伝統・文化が津山の真骨頂だと思います。良いものをどんどん発信し、再発見し、伸ばす、そういう努力をしたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

井田　章子（いだ　あきこ）さん

旧久米町出身。横浜国立大学卒業後、小学校教諭を経て、昭和59年、㈱保健教育センターを設立、代表取締役として現在に至る。

高齢社会を受け入れ、はぐくむ ―